

令和5年度 社会福祉振興助成事業

美術の鑑賞教育と制作体験を  
誰もが体験できるように運ぶ出張型教育事業  
成果報告書



# 移動美術館 アート・トラック

## アートを身近に。 移動型ギャラリーによる出張展示。

荷台がひらくと、そこはまるで美術館。  
側面に作品が飾れる特別なトラックを使った、車一台分のちいさな移動美術館プロジェクトです。  
作品を直接見るよこびを届け、アートが身近にある時間をつくります。

## はじめに

本事業は、児童養護施設で暮らす児童や、なんらかの理由で希望する教育を受けられていない児童に対し、美術などの文化に触れ、それを理解し楽しむために必要な教育を専門家から受けられる機会を創出する教育事業です。

一般財団法人カルチュラルライツは、美術の鑑賞機会やワークショップによる制作体験を、様々な場へ届けるべく活動を続けてきた非営利団体です。公立美術館があるように、美術は公共性の高い文化と認められていますが、実際にそれを享受する機会は生育環境や教育環境で左右されてしまいます。文化の感受には教養学習が必要ですが、その機会が限られているために、公的な文化資産が活用されきっていないとも言えます。

これを背景に、私どもは例えば、学校外の学習機会が限られてしまう傾向のある、児童養護施設に暮らす児童を対象に活動を広げようと取り組んでまいりました。美術作品の鑑賞体験を提供しようとする、多くの場合、引率に大きな負担がかかります。文化施設では児童の喋り声に気を配り、走りまわらないよう管理する労力がかかり、また非専門家が内容を説明することも困難です。

そこで弊団体は、出張型で美術鑑賞と制作体験を提供する手法を開発してきました。車の移動性を利用し、美術作品を展示することができる荷台を持ったトラックでアーティストとともに各地を訪問、そこで対話型鑑賞と体験学習の提供を行なっています。これが本事業の中心となる企画「移動美術館アート・トラック」プロジェクトです。引率の労力がかからず、他の利用者への配慮が必要ない環境で美術の鑑賞教育を行うことができ、また制作体験や、アーティストと触れ合う体験も供することができる本事業は、多様な学びの場を生起させます。

成果記録

# 01



## 移動美術館を活用した児童養護施設での美術教育活動

トラックの荷台に美術作品を展示して各地へ出張し、本物の作品を使った鑑賞教育プログラムを実施する企画「移動美術館アート・トラック」を児童養護施設で展開しました。

アーティストや学芸員資格を持ったスタッフの指導の下、鑑賞教室だけでなく、そこで得た知識を活用しながら自身を表現する手段を学ぶ造形ワークショップも併せて行うプログラムを開発し、実施しています。

プログラム内容は、2名の現代美術作家と連携し、共同で作品展示とワークショップを用意しました。

6日間で5箇所の施設をめぐり、計7回プログラムを実施、延べ148人の児童に対し、美術教育活動を行うことができました。

### 開催概要

6日間で5箇所の施設をめぐり、計7回プログラムを実施しました。

2名のアーティストそれぞれと、作品展示とワークショップを企画し、期中に切り替えています。

2023年

7月21日 別府平和園（大分県別府市大字鶴見奥山田1110番地12）

7月24日 栄光園（大分県別府市南荘園町3組）

9月23日 新日本学園（神奈川県川崎市中原区木月伊勢町3-3）

10月21日 横浜中里学園（神奈川県横浜市青葉区みたけ台26-53）

プログラム1実施期間  
アーティスト：ゆにここ

2024年

3月2日 横浜中里学園（神奈川県横浜市青葉区みたけ台26-53）

3月10日 川崎愛児園（神奈川県川崎市宮前区馬絹1丁目24-5）

プログラム2実施期間  
アーティスト：木村桃子

### 開催内容

学芸員資格を持つファシリテーターとアーティスト本人の指導のもと、作品が展示されているトラックの周囲で鑑賞教室を行います。その後、施設内に移動し、ワークショップを行います。

10  
min

自己紹介  
アイスブレイク

20  
min

作品鑑賞  
対話型鑑賞教室

40  
min

ワークショップ

10  
min

まとめ

## プログラム1 アーティスト：ゆにここ

### 作品展示「旅」

現代美術作家のゆにここは、羊毛フェルトや布、ワタや和紙など、柔らかな素材を用いて、生き物のような不思議な作品を制作するアーティストです。

トラックに展示されたゆにこの作品は、手で触れたり、帽子のように被ったり、身に纏うことができ、触覚で楽しめます。視覚以外で楽しむ現代的な表現性を、本展示を通して体験的に学ぶことができます。



### ワークショップ「さわって楽しい“むにゅ”をつくろう」

ゆにここは、多様な質感の布やワタ、和紙などを使用し、手触りを重視した作品制作を行なっているため、ワークショップでも様々な素材の違いを感じながらものづくりを楽しめます。

アーティストが一つ一つ手作りしたぬいぐるみの「体」は、様々な種類の布地でできており、手触りが違います。触覚を研ぎ澄まし、手の感覚で好きなものを選んだら、顔や手足をつけて、自分だけのぬいぐるみ「むにゅ」を作ります。



## プログラム2 アーティスト：木村桃子

### 作品展示「星と人のけしき」

彫刻家の木村桃子は、星座や人をモチーフに木彫作品を制作しています。

星の表現として光を透かすファイバーを仕込んだりと、一見静謐な木彫作品に、様々な仕掛けを施しています。現代美術の表現の特徴的な面白さを体感しながら、距離や時間といった星にまつわる深遠なテーマを学ぶことができます。



### ワークショップ「こもれびの窓をつくろう」

木村桃子の枝を使った作品をイメージしたワークショップです。

木枠の中に枝を絡み合うように積み、グルーガンで固定していきます。出来上がった作品を太陽にかざすと、自分だけのカタチのこもれびが生まれます。星座の形になるように光ファイバーを差し込んで、アートのコンセプトを学びます。



## 評価 アンケート集計結果

事業の実施後、受け入れのご担当者様にアンケートをお願いし、同時に参加した他の職員の皆様の意見も含め、集約していただきました。

### 満足度

「企画の満足度はいかがでしたか？」という質問に対し、「とても満足」「満足」「やや不満」「不満」の4択で、全施設にて「とても満足」と回答がありました。

また、「また企画に参加したいですか？」という質問に対し、「参加したい」「参加したくない」の2択で、全施設にて「参加したい」と回答がありました。

### 自由記述

児童たちの様子はいかがでしたか？お気づきのことがあればお教えてください。

- 子ども達の知らない一面が見えて勉強になりました。普段なんでもすぐ飽きちゃう子がずっと集中していて、こういうのが好きだったんだと初めて気付いたり、。
- 想像以上に熱心にアートを楽しんでいて、質問もたくさん出ているのが驚きました！
- 作品を見たり、ものをつくったり、どっちもあるから、いろんな子たちの興味に応えられていて、そこがとてもよかった。年少向けかと最初思っていたが、高校生の子達も楽しめるように考えられていて、そういうプログラムはあまりないので助かった。
- アーティストの方がとても親近感の湧く素敵な方で、子どもたちもリラックスできていたようです。なかなかない経験に興奮していました。

作品鑑賞について、お気づきのことがあればお教えてください。

- 美術が好きな子たちが、素材や作り方、作るのにかかる時間の質問をしていて、自分でもやってみたいと思って見てるんだなと思った。
- あんまり興味ないんじゃないかと思ってた児童がよく見ていておどろきました。
- うちの子たちにはむずかしいんじゃないかなーとか思っていました反省。作家さんのお話もよく聞いていて、私より理解していたかも（子どものアタマは柔軟！）。
- 自分たち職員もあまりアートに親しみがある者がおらず、職員の間でも盛り上がりました。美術館に行ってみたいと言い出す児童もあり、とても有意義な時間となっていたようです。
- さわれる作品、帽子になっている作品が人気で、こんな楽しみ方もあるんだねと盛り上がりました。

ワークショップについて、お気づきのことがあれば教えてください。

- 熱中してみんな作品作りに励んでいました。
- いつも静かな年少の子がよく喋っていて、まわりの作品も見てまわっていたのが意外で、コミュニケーションツールになるなと思いました。
- グループが嬉しかったみたいで、とても熱心にアートをしている児童たちの姿が見られました。内容もそうですが、自分たち職員では用意できない素材や道具を体験できるのは、とても教育的であったと思います。
- 「これ何ー？」とか聞いてみると、みんな想像以上にそれぞれ考えていて、「ここはウサギの家！」とか「これはここと繋げる！」とかストーリーを考えてて、創作を楽しんでいるようでした。

もっとこうだったら！など改善できそうなことがあれば教えてください。

- 年齢層まじえて一緒くたにやったので、その良さもありましたが、進む速度がちょっと差が出てしまったかも。年長組のワザを盗んだり、良いところもあったので、どっちを取るかですが……。
- 少人数の方がアーティストさんのお話をよく聞けると思うので、次来ていただける時は2グループに分けて試してみたいと思いました。



## 移動美術館を活用した食品配布会での美術教育活動

「移動美術館アート・トラック」プロジェクトを、フードバンクを活用して開催する食糧品配布会の場で展開しました（前掲の児童養護施設での展開と同様のプログラムを場を変えて実施したものです）。

食糧品配布会は、行くことをためられる方も多く、参加しやすい雰囲気づくりが課題ですが、文化体験ができる楽しいイベントとして再構築することで、より広範な対象者にリーチすることができました。社会福祉協議会や連携する団体の協力により、主に単身子育て世帯や生活困窮世帯に案内を頒布したところ、188名の参加が見られました。主に児童の参加を想定していた事業ではありますが、高齢者や障害者の参加もあり、対象を広げることに成功しています。

実施回数については、本来2回の実施を想定しており、2月に実施する予定で準備を行なっておりましたが、2024年1月1日に発生した能登半島地震の影響で見送り、1回だけの実施となりました。

### 開催概要

1名のアーティストとともに作品展示とワークショップを企画し（前掲の「プログラム1」と同様の実施内容）、無料食糧品配布等と組み合わせ、福祉イベント「フード&アートパントリー ちゃべちゃべ会」としてパッケージし、下記概要にて実施しました。



2023年

8月21日 11:00-15:30

金沢勤労者プラザ（石川県金沢市北安江3丁目2-20）

開催協力 特定非営利活動法人安心生活ネットワークいち、株式会社バローホールディングス  
連携 金沢市社会福祉協議会、株式会社インテグラルウェルフェア



おいしいものとたのしい時間をおとどけ

フード&アート  
パントリー

# ちべちべ会



**参加無料**

**① フード配布**  
生鮮食品からそのまま食べられるものまで、無料でお持ち帰りできる食糧品と、その他生活必需品をご用意しています！エコバックがある方はお持ちになってお越しください。

**② おむすびづくり**  
みんなで一緒におむすびを作って食べながら、ゆっくりお話しませんか？ 会場でのんびり、楽しくお腹いっぱいになれる場所づくり。

**③ 生活相談**  
これからの生活への不安や、なにかお困りごとなど、なんでもご相談ください。必要なサポートに繋がる窓口になります。住まいに関するご相談には、その場で専門家が対応可能です。

**④ アート体験** 移動美術館 & ワークショップ  
楽しい工作に挑戦できるワークショップを、アーティストが用意してお待ちしています！  
出来上がった自分だけのアート作品は、記念にお持ち帰りできます。

**<ご参加方法>**  
このチラシをお持ちになり、会場へお越しください。  
※予約すると食品を確実にお受け取りできます。  
配布品はなくなり次第終了となるため、予約をおすすめします。  
予約については裏面をご参照ください。

**2023.8.20 (日)**  
**金沢勤労者プラザ 406**  
〒920-0022 石川県金沢市北安江 3-2-20  
**11:00-15:30**

無料のフード配布からお土産を選んで、おむすびを作って食べたり、アートをみたり、作品づくりに挑戦したり、おいしいものとたのしいもののそろった会です。生活のお困りごとを相談できる専門家もいます。

〔お問合せ〕 一般財団法人カルチュラルライツ  
Tel : 080-9017-9344 Mail : info@cultural-rights.org

主催 一般財団法人カルチュラルライツ 協力 特定非営利活動法人安心生活ネットワークいち 株式会社パローホールディングス

独立行政法人福祉医療機構  
山AM助産 社会福祉推進助産事業